

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 全日制)

目指す学校像	人間性豊かな、地域産業を担う職業人の育成
重点目標	1 基礎基本を重視し、学ぶ喜びを与える学習指導の充実を図る 2 基本的な生活習慣と規範意識を定着させる生徒指導の充実を図る 3 社会貢献に寄与できる人材育成を目指した進路指導の推進を図る 4 地域等との連携に積極的に取り組み、開かれた学校を目指し学校理解へと繋げる

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
29年度目標					29年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	今年度の評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】各取り組みの成果が現れ始めているが、基礎学力や自主学習の習慣の身につけていない生徒も入学している。</p> <p>【課題】学習意欲を引き出し、主体的・対話的な言語活動の伴った授業改善が必要である。</p>	<p>基礎学力の向上、自学自習の習慣化の定着</p> <p>学力向上を目指した授業の改善、評価の工夫</p>	<p>①朝学習及び放課後の自主学習時間の確保及び補習体制を整備する</p> <p>②各教科において学習習慣を身につけさせる工夫を実践する</p> <p>①授業改善に向けたアクティブ・ラーニングを推進する</p> <p>②研修会を実施し、評価・評定の共通理解に取り組む</p>	<p>①生徒アンケートで、「自主学習の習慣が身につく、家庭学習の習慣化」が前年度(25%)より上昇したか</p> <p>②「授業が楽しい」が前年度(57%)より上昇したか</p> <p>①「授業に主体的に取り組んでいる」が前年度(66%)より上昇したか</p> <p>②「先生は分かり易い授業を工夫して行っている」が前年度(73%)より上昇したか</p>	<p>朝学習等の取組もあり、自学自習の習慣化等、概ね現状を維持できた。</p> <p>①自主学習の習慣化は、1,2学年は25%、全体で22%となり概ね現状維持である。</p> <p>②授業が楽しいと感じている割合は56%と昨年度ほぼ同じである</p> <p>A・L等の取組が進み、授業改善を進めることができた。</p> <p>①主体的に取り組んでいる割合は65%であり昨年度とほぼ同じである。</p> <p>②分かり易い授業の実践は71%と昨年度とほぼ同じである。</p>	B	<p>学年を追うごとに自主学習の数値は減少している。朝学習を学年毎に見直し、自発的に進める内容に検討する必要がある。その為に教科による横断的な取組も必要である。</p> <p>授業見学週間及び研修会を実施した。18名の教員、延べ38時間の公開授業が行われた。次期学習指導要領に向けて来年度も多くの教員に参加を願う。校長が行った学習アンケートを基に各学科などで評価改善に向けて共通理解に取り組む。</p>
2	<p>【現状】集団の質的向上が見られ、落ち着いた雰囲気の中、授業も円滑に行われている。</p> <p>【課題】基本的な生活習慣と規範意識の定着を一層図るための様々な指導が必要である。</p>	<p>基本的な生活習慣の定着</p> <p>自己肯定感の醸成</p>	<p>①遅刻防止週間での指導を組織的に行う</p> <p>②教育活動のあらゆる場面で、細かな指導を実践する</p> <p>①近隣小学校と連携し見守り隊や地域パトロールを実施する</p> <p>②心の伸長を重視し、「指導部通信」や「指導マニュアル」を活用した規範意識や目的意識の醸成を図る</p>	<p>①年間遅刻数が前年(1.3/1人)の水準を維持しているか。</p> <p>②「ルールやマナーを守る態度を育てる」が前年度(85%)の高い水準を維持しているか</p> <p>①「宮工に入学してよかったと感じている」が前年度(80%)の高い水準を維持しているか。</p> <p>②「悩みに関する相談について適切に対応している」が昨年度(64%)より上昇したか</p>	<p>学年教科の取組により遅刻者が減少するなど、基本的な生活習慣の改善が図られた。</p> <p>①遅刻者数は昨年度の80%程度で推移し、減少傾向が続いている。</p> <p>②ルールやマナーを守る態度を育てているかは81%となり、昨年度をやや下回ったが高い水準を維持している。</p> <p>担任を始め教職員の指導が行きわたり、自己肯定感が醸成された。</p> <p>①入学してよかったと感じている生徒の割合は80%と昨年度と同じである。</p> <p>②悩み相談への対応は、64%の生徒が適切に対応していると感じている。</p>	A	<p>遅刻指導は継続的な取り組みを行う。また各指導の取組を強化する。生徒手帳等を活用した自己管理能力も必要である。</p> <p>各講話も基本的な生活習慣を理解させるのは有効であり継続したい。</p> <p>生徒指導部が発行している「指導部通信」により、様々な出来事について教員、生徒は考える機会が得られている。活用方法を検討したい。全校集会などを定期的に設け、より共通理解を図れる仕組みを考える。</p>
3	<p>【現状】近年の求人件数上昇に伴い、優良企業に就職する割合が増えた。卒業生の進路(就職:進学)は約7:3である。</p> <p>【課題】社会性やコミュニケーション能力を身に付けさせた、人材育成が必要である。</p>	<p>コミュニケーション能力を向上させる</p> <p>地域産業界等と連携し、勤労観や職業観を身につけさせる</p>	<p>①教育活動において発表や対話の機会を意図的に設定する</p> <p>②進路指導やガイダンスを通し、生徒の自己理解を深化させる</p> <p>①インターンシップの実施</p> <p>②企業や外部の講師を招聘した面接指導を実施する</p>	<p>①学習活動やHR活動・特別活動において実施されたか</p> <p>②「生徒一人ひとりに適した細やかな進路指導を行っている」が昨年度(69%)より上昇したか</p> <p>①インターンシップ企業の評価と生徒の自己評価が昨年度より上昇したか</p> <p>②県内就職者が65%に達したか</p>	<p>教科学年が発表の機会を多く設け、コミュニケーション能力が育てられた。...</p> <p>①生徒は様々な発表機会が得られ、発言する機会が多く設定された。</p> <p>②進路指導は充実しているとの回答が70%と多かった。</p> <p>勤労観や職業観が身につく、1回目の内定率が昨年度より上昇した。</p> <p>①進路を決定するのに役立つとの生徒回答が86%、参加してよかったとの回答が95%あり昨年度より上昇している。</p> <p>②県内就職者は63%とほぼ同じであった。</p>	A	<p>生徒に人前に出て、話す機会を多く持たせた事でコミュニケーション能力向上に役立てられた。今後も各種発表会を、充実させることが必要である。</p> <p>進路ガイダンスや面接指導、推進事業講演会などを通じて民間企業等の方から、指導を受けたことで、生徒の勤労観や職業観の育成に役立った。今後も継続していきたい。同時に保護者向けガイダンスや、キャリア教育も充実させることで、効果を上げたい。</p>
4	<p>【現状】地域、企業との連携による協働教育が進められてきている。</p> <p>【課題】地域全体で人材を育成する協働教育を推進し地域からの理解と信頼をより得られるかが重要である。</p>	<p>地域への学校理解を図る取組を推進する</p>	<p>①出前授業・公開講座を学校全体で取り組む</p> <p>②地域催事への積極的な参加と広報活動を充実する</p>	<p>①地域アンケートで学校の取組みや認知度が上がったか</p> <p>②学校説明会や学校行事等への来校者数が増加したか</p>	<p>学校理解につながる出前授業やチャレンジスクール、地域清掃などの取組を行った。</p> <p>①地域アンケートで「地域に根付いている」が48%から57%と上昇した。記述欄では見守り隊など良い取組みであると評価が有る一方で、広報活動で取組み内容を知りたい意見もあった。</p> <p>②学校説明会の参加者は14%増であった。</p>	A	<p>外部連携で、学校の資産活用は有効に行われている。一方で、相互の協働する取組は、年間を通してと少なかった。アンケート結果より地域住民への広報などで課題が残った。</p>

実施日 平成30年 2月14日

学校関係者からの意見・要望・評価等

- 授業に主体的に取り組んでいる割合より、先生が分かり易い授業を行っている割合が高いことは良いことである。
- 「分かりやすい授業」=「勉強しなくても分かる授業」とならないよう注意する必要がある
- 自主学習の数値を上げるためには、現在とは別の方策を検討する必要がある。
- 新学習指導要領に対応した取り組みとリンクする必要がある。
- 資格指導への取り組み(工業、普通教科)を充実させ、生徒が受けやすい環境や情報提供がされるとよい。常設の資格コーナーなどを設置してもよいのでは。
- 施設・設備管理について安全面を考慮したほうがよい。

- 改善を前提とし、数値目標を立てる必要がある。
- 小学生への見守り隊の取り組みには感謝している。中学生への声掛けもあり助かっている。
- 生徒指導部通信はきめ細かく情報を出していて非常に良い取り組みである。校則の見直しを進め、保護者へ情報発信するツールとしてもよい。
- 生徒が過ごす3年間を誇れるような、特色があってもよくなるのではないか。校歌が歌えるような生徒であってほしい。

- 進路保証がされている中、卒業後の動向についても気になる。
- コミュニケーション能力を育成するために、各種発表会やガイダンスは有効である。継続や拡充することを望む。
- 今後、大学進学希望者に問われる能力が変わっていくことへの対応も検討されることを重要である。
- アクティブ・ラーニングは、会話に苦手意識がある生徒には不評である。言葉のやり取りについての指導も重要と考える。

- 地域は学校から離れるほど目が向きにくい。学校近隣は、様々な活動への認識や理解がある。広報活動に力を入れる必要がある。
- 出前授業で中学校が少ない。中学生向けの内容を検討する必要がある。